

広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略外部評価会議

領域	主 な 意 見
人の集まりと定着	<p>【県外出身学生の定着促進】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 広島県は、学生の大学進学時の県外流出が超過しており、大学の人員充足率でも愛知県・京都府・大阪府などは100%を超えているのに対し、広島県は99%だが、個別に見ると低い大学もある。○ 就職時に目をやると、都市部で人材の枯渇している業界では、地方に貸切バスを出したり移動費を全額負担するなどして、人材の確保に手を尽くしている。本県も同様の取組をやっていく必要があるのではないか。○ 大学としても、就職率を上げるほうがメインになっており、学生の県内定着に関しては手が打てていない。むしろ、学生の自己実現のため、東京圏や関西への就職を応援しているところもある。○ 県外出身学生にも2グループあると思う。1つは郷土愛が強く地元に戻りたいと考えているグループ、もう1つは自分の興味・関心に合わせて街を移っていくグループ。前者には、学生時代から地域社会と関わる場面を提供することで、広島を第2の故郷と思ってもらえばよいのではないか。後者には、彼らの自己実現を叶えることのできる、魅力のある県内企業をアピールしていくことが必要ではないか。○ 企業の良さを知る機会がもっと増えればよいといった意見があるが、一方で、インターンシップについては、メリットの食い逃げの問題がある。企業の懐の深さも必要かもしれないが、受入れに不信感を持っているところもある。○ 企業が県外から新卒者を呼んで来たり、第2新卒の採用など、柔軟な採用方式によって広島における就業者を増やす必要があるのではないか。○ 産業を興して、魅力的な企業を創出することも必要だが、カープで盛り上がっているようにまち自体の魅力を高めることも大切ではないか。○ 学生が県外へ出ていく原因については、より詳細に調べる価値がある。○ 全国的にも増えてきたが、一定期間県内で就業すれば返済が免除になるような奨学金制度を取り入れてはどうか。○ 小さくてもトップシェアの企業など、広島には魅力ある企業が多い。学生にそうした企業への興味をもってもらうことも大切。

領 域	主 な 意 見
少子化対策	<p>【合計特殊出生率の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1人でも子育てしやすい環境を整えることが必要ではないか。 ○ 養子縁組を利用しやすくするなど、視点を変えた何かも必要では。 ○ フィンランドのネウボラのように、出産前から小学校に上がるまでをワンストップで支援するような制度や保育士の補助員の活用を検討してはどうか。 ○ 保育については、安心・安全はあたりまえで、しっかりとした教育も含めた保育体制の構築に取り組むことが、子供を持つことや、県外から子育て家庭を呼び戻すことにつながるのではないか。 ○ 女性の結婚はその時点だけでなく、ライフサイクル全体に大きく影響するものであり、地域全体でサポートしているといったイメージや環境づくりが重要である。 ○ 例えば非常に充実した子育て支援をしても、宣伝不足な企業がたくさんある。がん検診のデーモン閣下のようにインパクトのある広告で、県内の子育て支援企業のイメージを浸透させることが必要ではないか。 ○ 企業での子育て支援の取組のアピールであれば、学生よりも就職指導の教員に知ってもらおうことのほうが効果的ではないか。 ○ 創業支援と併せることで、子育てしながら働ける環境を持ったインパクトのある企業ができれば、広島全体に対する注目度も高まるのではないか。 ○ 保育所不足で一旦は仕事を辞めなければならない女性もいると思うが、アメリカでは職場復帰のための研修コースを持った会社がある。日本にもこのような制度があればよいのでは。 ○ 出生率の話をする際に、女性への発信だけでなく、男性へのメッセージも必要ではないか。イクメン・イクボスの取組のように、男性が育児への理解・協力度を高めることで、結果として女性の子育てに対するハードルが下がるのではないか。 ○ 男性の育児参加には世代間ギャップがあるが、これからの若い世代の間では育児参加へのハードルは下がっていくのではないか。 ○ 保育と高齢者のデイケアの双方を担う施設ができれば、相乗効果が期待できるのではないか。

領域	主 な 意 見
女性の活躍	<p>【女性の就業率の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家事サービスが普及すれば、女性がより働きやすくなるのではないか。 ○ 企業の意識も、女性の活躍に対して、「では実際にどんな取組をすればいいか」といったところまで変わってきている。指導的立場に占める女性の割合の向上など、次の段階を見ていく必要がある。 ○ 「女性の働きやすさ日本一」を語る上で、就業率を上げることが目的ではないのではないか。就業率は結果でしかないので、例えば家族のQOLの向上など、その結果に至る過程でどんな指標を設定するのか考えないといけない。 ○ 行政ができることとしては、「子育てするなら広島県」といった地域イメージやブランドを作っていくことではないか。
その他	<p>【欲張りなライフスタイルの実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ワークライフシナジー」の面から言うと、生産性の向上で仕事を短縮し、余った時間でライフを充実させ、そこで得たものをワークに反映するという考え方は非常にいいと思う。 ○ ただし、今の若者はある程度満たされていて、「欲張る」ほどのハングリーさがないように感じる。そういった層にどうアピールしていくかが難しい。 ○ 「欲張り」がイノベーションのためと言われると少し違和感がある。 ○ 仕事も暮らしも「どちらもあきらめなくていい」ということを前面に出して広報すべきだと思う。 ○ 長いライフサイクルの中で、この時期は仕事を頑張りたい。この時期は暮らしを充実させたいといった時期があると思う。そうした多様性を認め、人生トータルで「欲張れた」と満足できることが大事なのではないか。 ○ どちらか一方をとれば、もう一方をあきらめざるを得ないというのがこれまでの一般的な感覚だと思うが、広島県ならそれがバランスよく実現でき、そこから豊かな生活が生まれてくるという新たなライフスタイルの提示が最終的な目標なんだろうと思う。